



伸縮門扉QA HG型

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。

■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

■安全に関する記号と説明



警告

・取付けを誤った場合、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。



注意

・取付けを誤った場合、使用者などが中程度の損傷・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。

■情報に関する記号と説明

施工上のお願

・取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
・守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

■ねじ等の締結部品の記号

ねじやナット等の締結部品を記号で示しています。(例：1-1、1-2、2-3等)

締結部品の種類は「**梱包明細表**」を参照してください。

■目次

施工上の注意	2	3 施工手順	13
施工の前に	2	3-1 戸当り柱、吊元柱の埋設	13
施工上のご注意	2	3-2 ヒジツボの取付け	13
施工の後に	3	3-3 門扉タイプに合わせて部品を付替える	14
チェックリスト	4	3-4 門扉本体の取付け	16
梱包明細表	4	3-5 移動柱の取付け・角地部品の取付け	17
1 各部名称と基本寸法図	6	3-6 落し棒の付替えと格子キャップ上の取付け	19
1-1 各部名称	6	3-7 回転柱の高さとヒンジストッパーの長さ調整	19
1-2 基本寸法図	7	3-8 移動柱先端の高さ調整	20
2 施工の流れ	12	3-9 移動柱の角度調整	22
		3-10 錠受け金具、振止ガイド受け、柱受け金具の高さ調整	22
		3-11 落し棒受けパイプとセンター落し棒受けの埋設	23
		3-12 センター落し棒の下限位置設定	24
		3-13 センター落し棒の調整	24

□ 施工の前に

▲ 注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。

施工上のお願い

- 施工場所に寸法的に正しく納まるか事前に必ず確認をしてください。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

□ 施工上のご注意

▲ 注意

- ねじは当社指定品を指定本数使用し、下記締付トルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。強度低下などの原因になります。

〈推奨トルク〉

※M4ねじ: $1.5\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$
($15 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)

※ $\phi 5$ ねじ: $3.0\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$
($30 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)

※M8ボルト: $12.5\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$
($125 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)

※ $\phi 4$ ねじ: $1.0\text{N}\cdot\text{m} \pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$
($10 \pm 5\text{kgf}\cdot\text{cm}$)

- モルタルやコンクリートには、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリのコンクリート用混和材(凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤等)は使用しないでください。使用するとアルミ等の金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 施工時に製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。アルミなどの金属が腐食し強度低下の原因となります。
- 製品の埋込み深さは、施工場所によって(軟弱な地盤など)基礎部コンクリートの量(体積)を十分配慮してください。



施工上のお願い

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具(保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具)を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 施工中についた汚れは取り除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

施工の後に

▲ 注意

- ねじにゆるみがないか確認してください。強度低下などの原因になります。

施工上のお願い

- 工事完了後の引渡しをする時に、お客様に正しく使用して頂くために、取扱説明書を渡して使用方法、保守・点検等の説明をしてください。
- 取扱説明書は施主様にお渡しください。

施工上の注意

チェックリスト

※下記項目は重要事項ですので必ず点検してください。

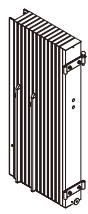


●ねじ止め

No.	ページ	チェック内容	
1	13 3-2	ヒジツボ A、ヒジツボ B は【2b】ボルトを使用して推奨トルクで取付け、ゆるみがないことを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
2	17 18	柱キャップ上、柱キャップ下は【2c】ねじを使用して推奨トルクで取付け、ゆるみがないことを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
3	17 18	移動柱は【2d】ねじを使用して推奨トルクで取付け、ゆるみがないことを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
4	17 18	柱受け金具は【2a】ねじを使用して推奨トルクで取付け、ゆるみがないことを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>

●柱の調整

No.	ページ	チェック内容	
1	19 3-7	吊元柱と回転柱の高さが合っていることを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
2	20 21	(片開きの場合) 戸当り柱と移動柱の高さが合っていることを確認しましたか。 (両開きの場合) 移動柱同士の高さが合っていることを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
3	22 3-9	(片開きの場合) 戸当り柱と移動柱が平行になっていることを確認しましたか。 (両開きの場合) 移動柱同士が平行になっていることを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
4	22 3-10	錠受け金具、振止ガイド受け、柱受け金具の高さ調整を行い、錠と錠受けの高さが合っていることを確認しましたか。	<input type="checkbox"/>
5	19 3-7-2	回転収納をする際、ヒンジストッパーを引き上げずにヒジツボ B から抜けてしまうことはありませんか。	<input type="checkbox"/>

梱包明細表

【1】本体セット (H12・H14)				
名称	略 図	員 数		
		110S 200S	220S 310S	335S 420S
本体		1	1	1
格子キャップ上		1	2	3
落し棒受けパイプ		2	3	4

梱包明細表

【2】柱セット (H12・H14)					
名称	略 図	員 数			
		(ロング仕様)片開き柱セット	(ロング仕様)両開き柱セット	(ロング仕様)角地部品柱セット	
戸当り柱 (柱受け金具付)		1	—	—	
吊元柱		1	2	2	
移動柱:掛側S		1	—	—	
移動柱:掛側W		—	1	1	
移動柱:受側		—	1	—	
角地部品		—	—	1	
柱キャップ上		1	2	2	
柱キャップ下		1	2	2	
ヒジツボA		2	4	4	
ヒジツボB		1	2	2	
ヒジツボカバー		4	8	8	
回転柱受け金具		1	2	2	
金具セット	柱受け金具		—	1	1
	【2a】M4×12サラ小ねじ		—	2	2
センター落とし棒受け		—	1	1	
ヒジツボピンセット	ヒジツボピンA		1	2	2
	ヒジツボピンB		1	2	2
	ヒンジキャップ		2	4	4

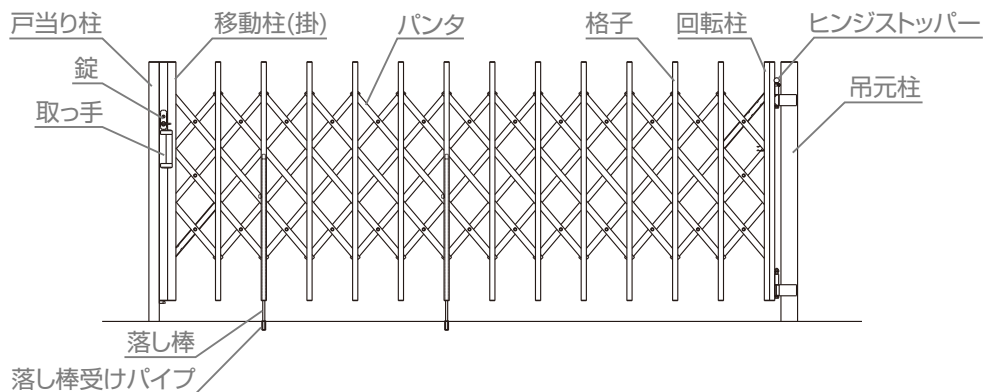
【2】柱セット (H12・H14) (つづき)					
名称	略 図	員 数			
		(ロング仕様)片開き柱セット	(ロング仕様)両開き柱セット	(ロング仕様)角地部品柱セット	
【2b】M8×20六角ボルト		8	16	16	
【2c】φ4×10サッシ用サラタップピンねじ3種		7	14	14	
【2d】φ5×8トラスタップピンねじ3種		8	16	16	
基準シール		—	1	1	
鍵		3	3	3	
取付説明書 EXM-098		1	1	1	
取扱説明書 EXM-101		1	1	1	

1 各部名称と基本寸法図

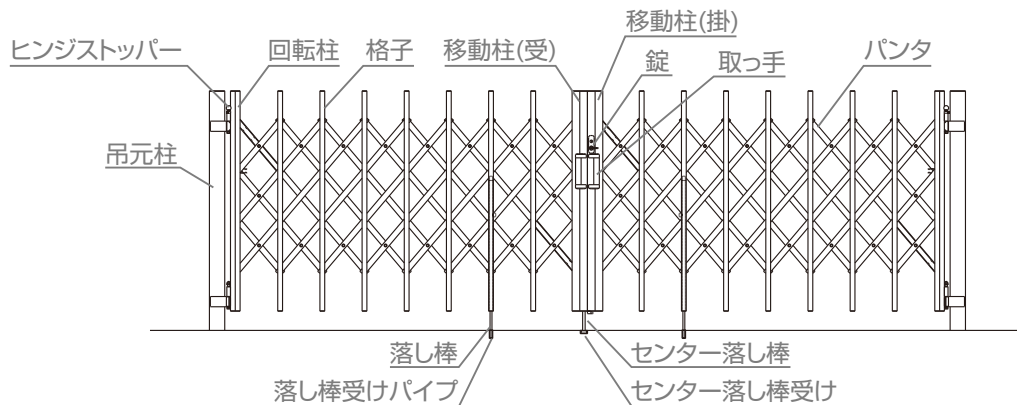
1-1 各部名称

※図は家側から見た場合を示します。

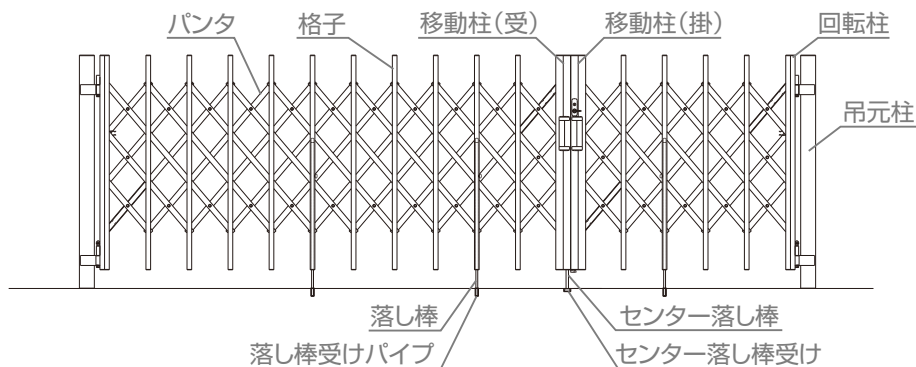
■片開きタイプ



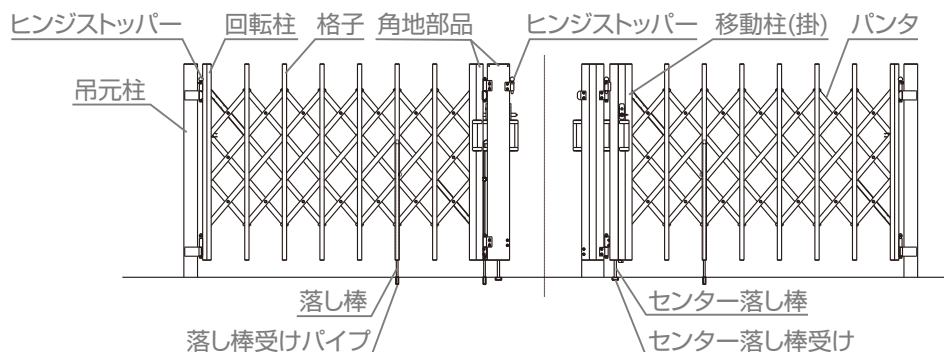
■両開きタイプ



■両開き親子タイプ



■角地タイプ

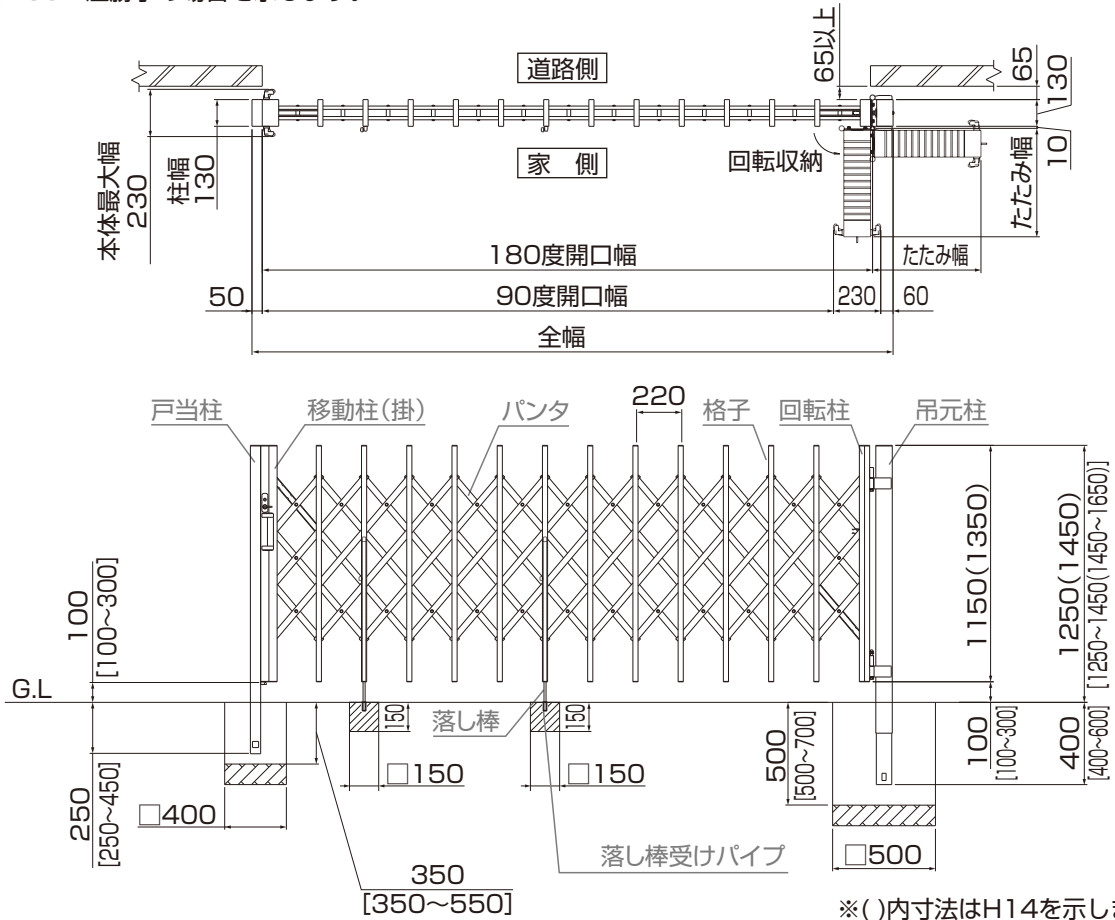


1 各部名称と基本寸法図

1-2 基本寸法図

■片開きタイプ

※図はH12-310S・左勝手の場合を示します。



※()内寸法はH14を示します。

※[]内寸法はロング柱仕様を示します。

呼称	全幅	たたみ幅	90°収納開口幅	180°収納開口幅	落し棒数
110S	1,140	245	800	990	1
135S	1,360	275	1,020	1,210	1
155S	1,580	310	1,240	1,430	1
180S	1,800	340	1,460	1,650	1
200S	2,020	375	1,680	1,870	1
220S	2,240	405	1,900	2,090	2
245S	2,460	435	2,120	2,310	2
265S	2,680	470	2,340	2,530	2
290S	2,900	500	2,560	2,750	2
310S	3,120	535	2,780	2,970	2
335S	3,360	590	3,020	3,210	3
355S	3,580	620	3,240	3,430	3
380S	3,800	655	3,460	3,650	3
400S	4,020	685	3,680	3,870	3
420S	4,240	720	3,900	4,090	3

施工上のお願い
●基礎の沈降・傾き防止のため、柱基礎下に100mm厚の砕石を必ず敷いてください。
●基礎寸法は、指定寸法以上にしてください。
●砕石と柱の間にはコンクリートブロック等を入れてください。
●基礎の深さを柱の埋込み長さと同じにする場合は、基礎の体積を指定寸法以上にしてください。
●基礎の深さは必ず、インターロッキング等の床材厚さの下端から指定の埋込み寸法以上確保してください。
●ロング柱仕様の場合は現場の状況に応じてGLから移動柱及び回転柱の下面までの高さが100～300mmになるよう柱を埋設してください。

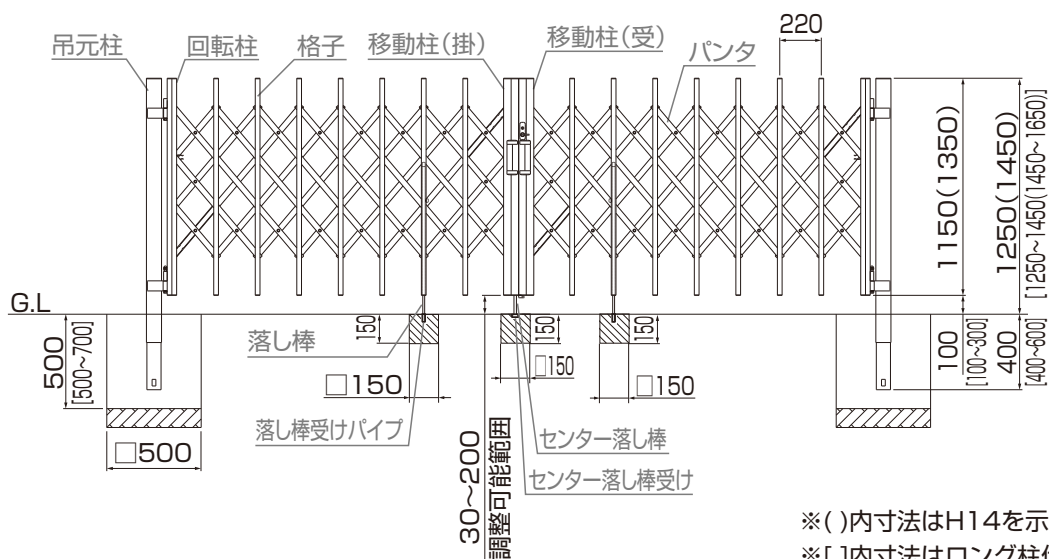
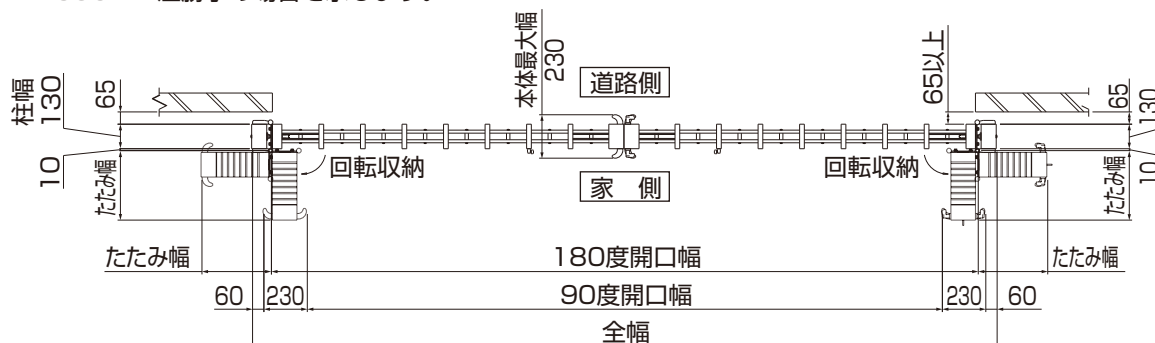
各部名称と基本寸法図

1 各部名称と基本寸法図

1-2 基本寸法図 (つづき)

■両開きタイプ

※図はH12-390W・左勝手の場合を示します。



※()内寸法はH14を示します。

※[]内寸法はロング柱仕様を示します。

呼称	全幅	たたみ幅	90°収納 開口幅	180°収納 開口幅	落下棒数
300W	3,030	310	2,450	2,830	2
345W	3,470	340	2,890	3,270	2
390W	3,910	375	3,330	3,710	2
435W	4,350	405	3,770	4,150	4
475W	4,790	435	4,210	4,590	4
520W	5,230	470	4,650	5,030	4
565W	5,670	500	5,090	5,470	4
610W	6,110	535	5,530	5,910	4
655W	6,590	590	6,010	6,390	6
700W	7,030	620	6,450	6,830	6
745W	7,470	655	6,890	7,270	6

※落下棒数はセンター落下棒を除く。

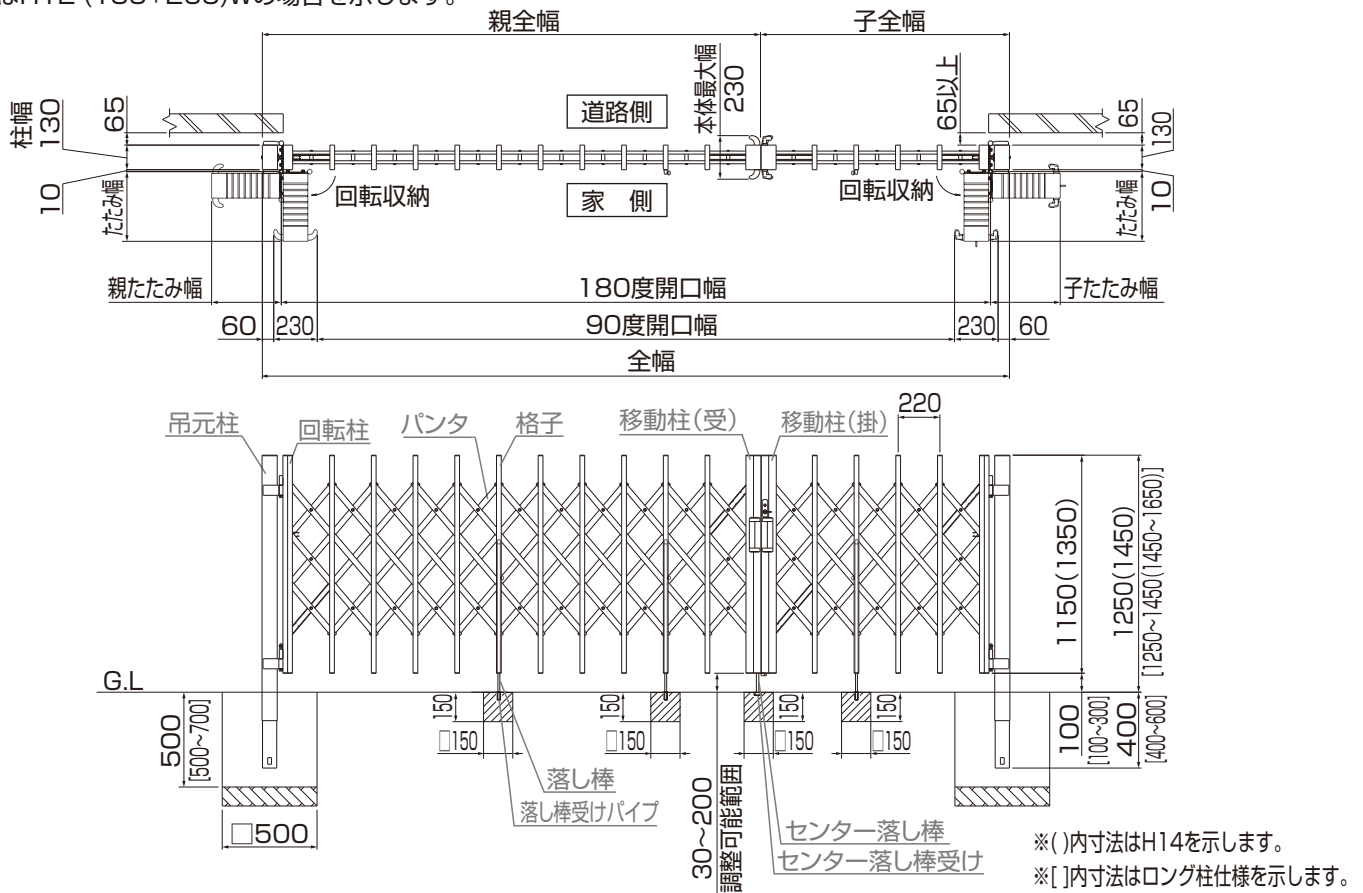
施工上のお願い
●基礎の沈降・傾き防止のため、柱基礎下に100mm厚の砕石を必ず敷いてください。
●基礎寸法は、指定寸法以上にしてください。
●砕石と柱の間にはコンクリートブロック等を入れてください。
●基礎の深さを柱の埋込み長さと同じにする場合は、基礎の体積を指定寸法以上にしてください。
●基礎の深さは必ず、インターロッキング等の床材厚さの下端から指定の埋込み寸法以上確保してください。
●ロング柱仕様の場合は現場の状況に応じてGLから移動柱の下面までの高さがセンター落下棒の調整範囲内(30～200mm)になるよう柱を埋設してください。

1 各部名称と基本寸法図

1-2 基本寸法図 (つづき)

■両開き親子タイプ

※図はH12-(135+265)Wの場合を示します。



※()内寸法はH14を示します。
※[]内寸法はロング柱仕様を示します。

型 式	全 幅	親全幅	子全幅	親たたみ幅	子たたみ幅	90°収納 開口幅	180°収納 開口幅	落下棒数
(135+200)W	3,250	1,955	1,295	375	275	2,670	3,050	2
(135+220)W	3,470	2,175	1,295	405	275	2,890	3,270	3
(135+245)W	3,690	2,395	1,295	435	275	3,110	3,490	3
(135+265)W	3,910	2,615	1,295	470	275	3,330	3,710	3
(135+290)W	4,130	2,835	1,295	500	275	3,550	3,930	3
(135+310)W	4,350	3,055	1,295	535	275	3,770	4,150	3
(135+335)W	4,590	3,295	1,295	590	275	4,010	4,390	4
(135+355)W	4,810	3,515	1,295	620	275	4,230	4,610	4
(135+380)W	5,030	3,735	1,295	655	275	4,450	4,830	4
(135+400)W	5,250	3,955	1,295	685	275	4,670	5,050	4
(135+420)W	5,470	4,175	1,295	720	275	4,890	5,270	4

※落下棒数はセンター落下棒を除く。

施工上のお願い

- 基礎の沈降・傾き防止のため、柱基礎下に100mm厚の砕石を必ず敷いてください。
- 基礎寸法は、指定寸法以上にしてください。
- 砕石と柱の間にはコンクリートブロック等を入れてください。
- 基礎の深さを柱の埋込み長さと同じにする場合は、基礎の体積を指定寸法以上にしてください。
- 基礎の深さは必ず、インターロッキング等の床材厚さの下端から指定の埋込み寸法以上確保してください。
- ロング柱仕様の場合は現場の状況に応じてGLから移動柱の下面までの高さがセンター落下棒の調整可能範囲内(30 ~ 200mm)になるよう柱を埋設してください。

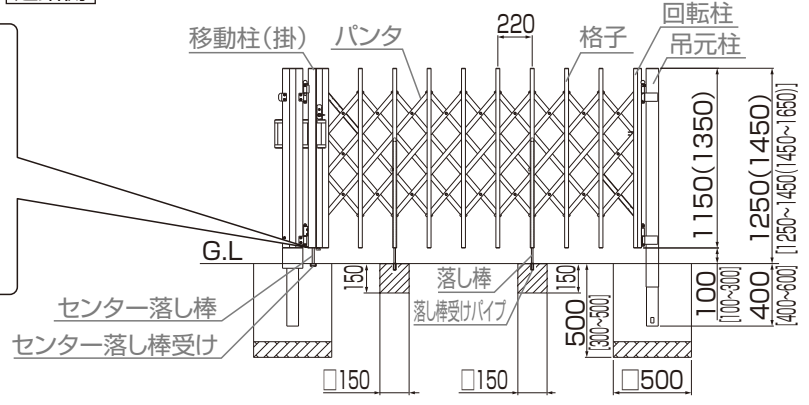
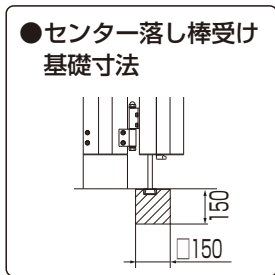
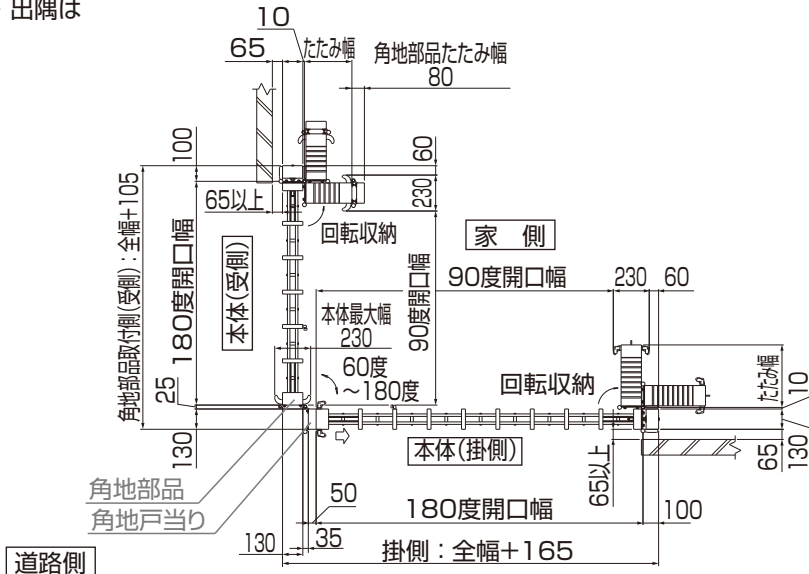
1 各部名称と基本寸法図

1-2 基本寸法図 (つづき)

■角地タイプ (両開き角地左コーナー柱タイプ)

※図はH12(180+245)角地タイプの場合を示します。

※移動柱掛け・受け、入隅・出隅は現場で選択できます。



※()内寸法はH14を示します。
 ※[]内寸法はロング柱仕様を示します。

呼称	全幅	たたみ幅	90°収納開口幅	180°収納開口幅	落し棒数
110	1,140	245	800	990	1
135	1,360	275	1,020	1,210	1
155	1,580	310	1,240	1,430	1
180	1,800	340	1,460	1,650	1
200	2,020	375	1,680	1,870	1
220	2,240	405	1,900	2,090	2
245	2,460	435	2,120	2,310	2
265	2,680	470	2,340	2,530	2
290	2,900	500	2,560	2,750	2
310	3,120	535	2,780	2,970	2
335	3,360	590	3,020	3,210	3
355	3,580	620	3,240	3,430	3
380	3,800	655	3,460	3,650	3
400	4,020	685	3,680	3,870	3
420	4,240	720	3,900	4,090	3

- #### 施工上のお願い
- 基礎の沈降・傾き防止のため、柱基礎下に100mm厚の碎石を必ず敷いてください。
 - 基礎寸法は、指定寸法以上にしてください。
 - 碎石と柱の間にはコンクリートブロック等を入れてください。
 - 基礎の深さを柱の埋込み長さと同じにする場合は、基礎の体積を指定寸法以上にしてください。
 - 基礎の深さは必ず、インターロッキング等の床材厚さの下端から指定の埋込み寸法以上確保してください。
 - ロング柱仕様の場合は現場の状況に応じてGLから移動柱の下面までの高さがセンター落し棒の調整範囲内(30 ~ 200mm)になるよう柱を埋設してください。

※落し棒数はセンター落し棒を除く。

各部名称と基本寸法図

1 各部名称と基本寸法図

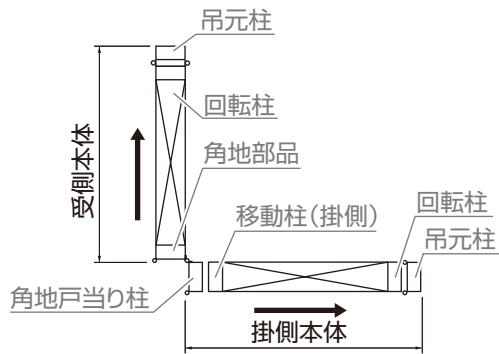
1-2 基本寸法図 (つづき)

■角地タイプの種類

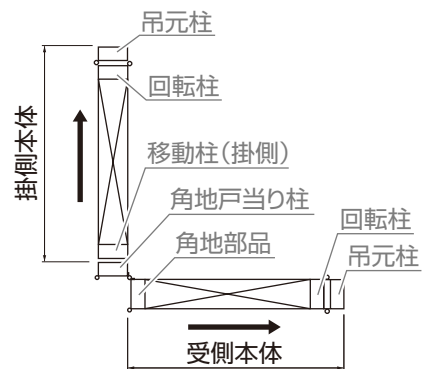
※本製品は両開き角地仕様が可能です。敷地に応じてお選びください。

※片開き角地仕様は対応できません。

1 角地左コーナー柱



2 角地右コーナー柱



1 各部名称と基本寸法図

1-2 基本寸法図 (つづき)

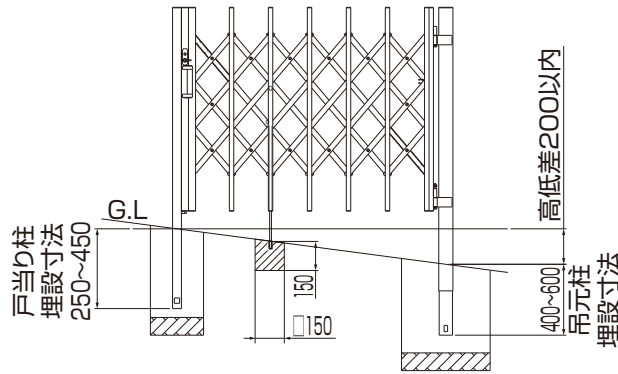
■ロング柱仕様施工例 (傾斜地)

※図は家側から見た場合を示します。

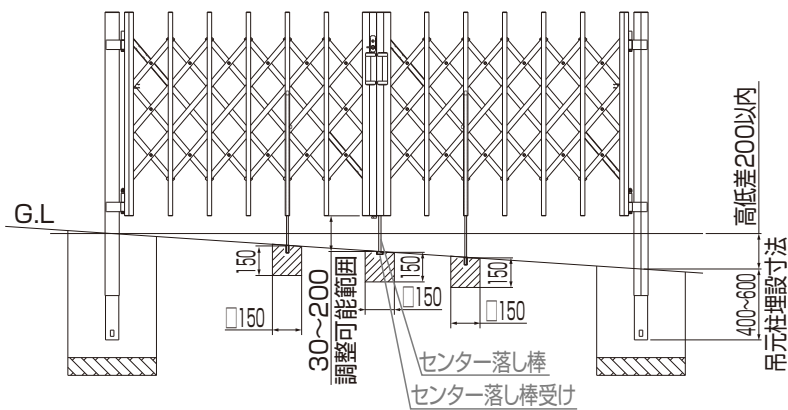
施工上のお願い

●ロング柱使用時、柱埋込み部の高低差を200mm以内してください。

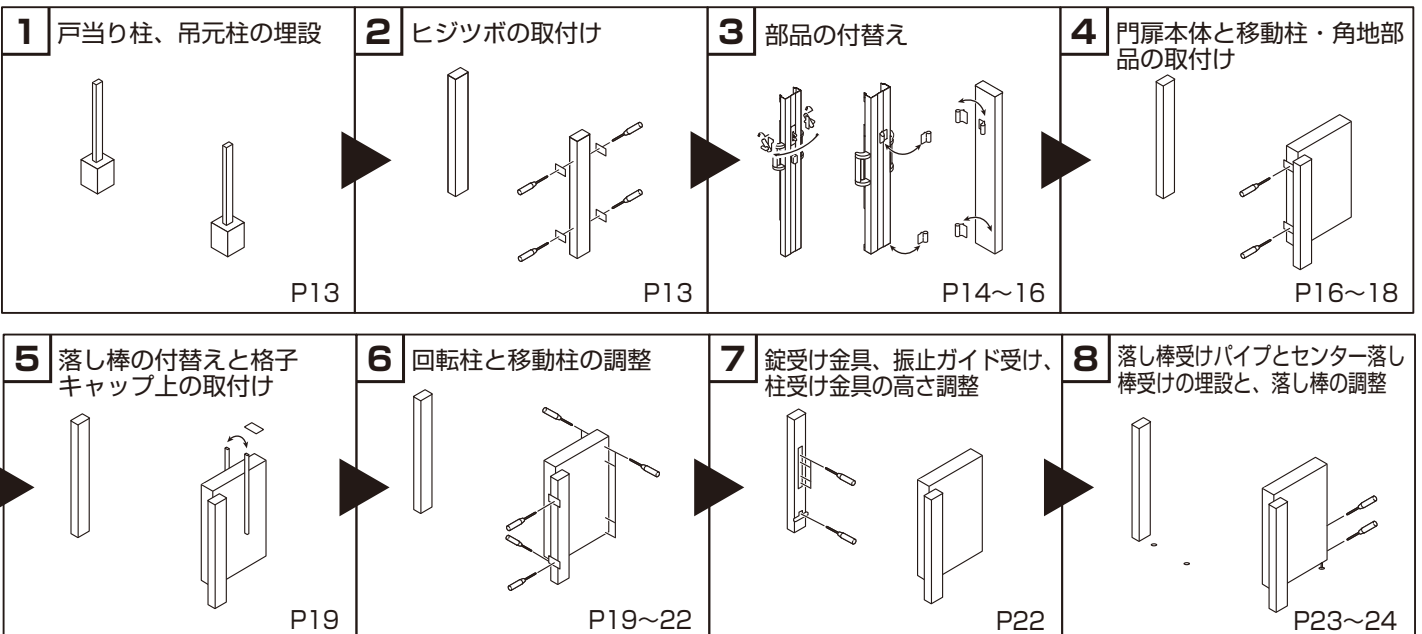
片開きタイプの場合



両開きタイプの場合



2 施工の流れ



3 施工手順

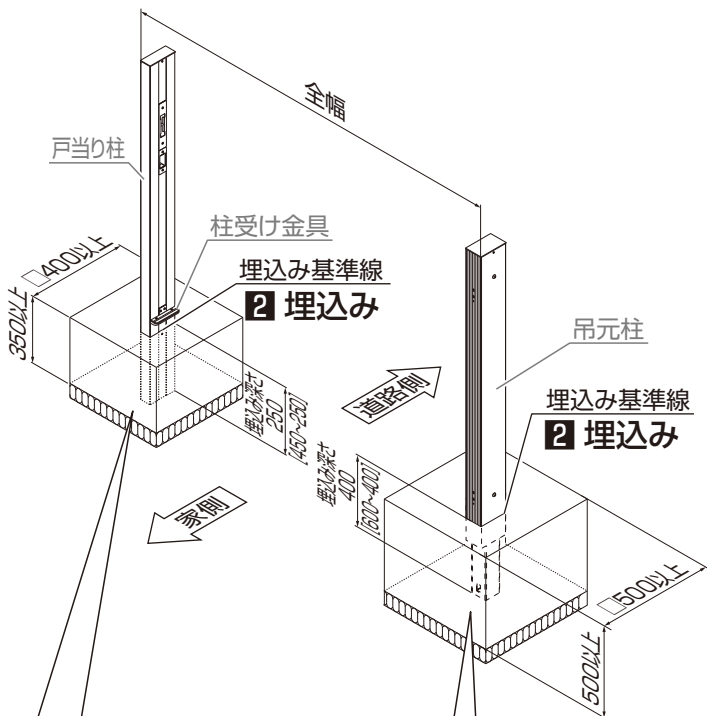
3-1 戸当り柱、吊元柱の埋設

- 1: 各納まりの全幅寸法および回転収納を考慮して、柱の埋込み位置を決める
- 2: 柱の垂直を確認し、埋込み基準線まで埋め込む
- 3: 吊元柱にG.L面より5mm上部の柱内側にφ6の水抜き穴をあける
- 4: ロング柱仕様の場合、戸当り柱にもG.L面より5mm上部の柱内側にφ6の水抜き穴をあける

施工上のお願い

- 基礎寸法は、指定寸法以上にしてください。
- 基礎の深さは必ず仕上げ床材厚みの下端から埋込み寸法以上を確保してください。

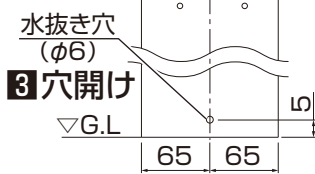
※図は片開き右施錠の場合です。
 ※()内寸法はロング柱の場合です。



●戸当り柱



●吊元柱

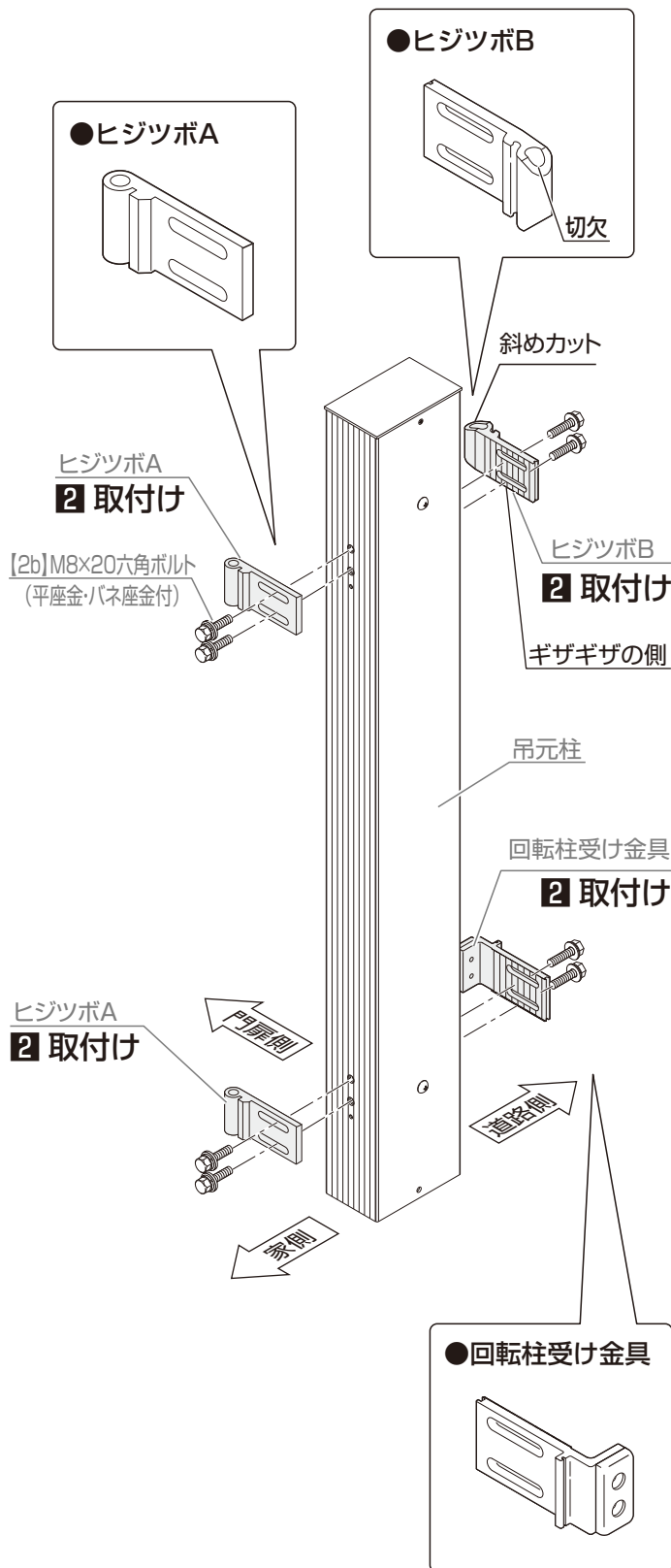


3-2 ヒジツボの取付け

- 1: 門扉本体の設置方向と、家側・道路側を確認する
- 2: 吊元柱にヒジツボA・ヒジツボBおよび回転柱受け金具を、長穴のセンターに【2b】で取付ける

施工上のお願い

- ヒジツボA・ヒジツボB・回転柱受け金具はギザギザの側を吊元柱側に向けてください。



施工手順

3 施工手順

3-3 門扉タイプに合わせて部品を付替える

3-3-1 錠金具の付替え（右勝手の場合）

1: 長座をマイナスドライバー等で取外す

施工上のお願い

- 錠金具は左勝手で組立されています。右勝手でご使用の場合、錠金具(キーシリンダー)が道路側にくるように付替えてください。
- 長座をマイナスドライバー等で外してください。その際に必ず布をあてるなど形材等にキズをつけないように注意してください。

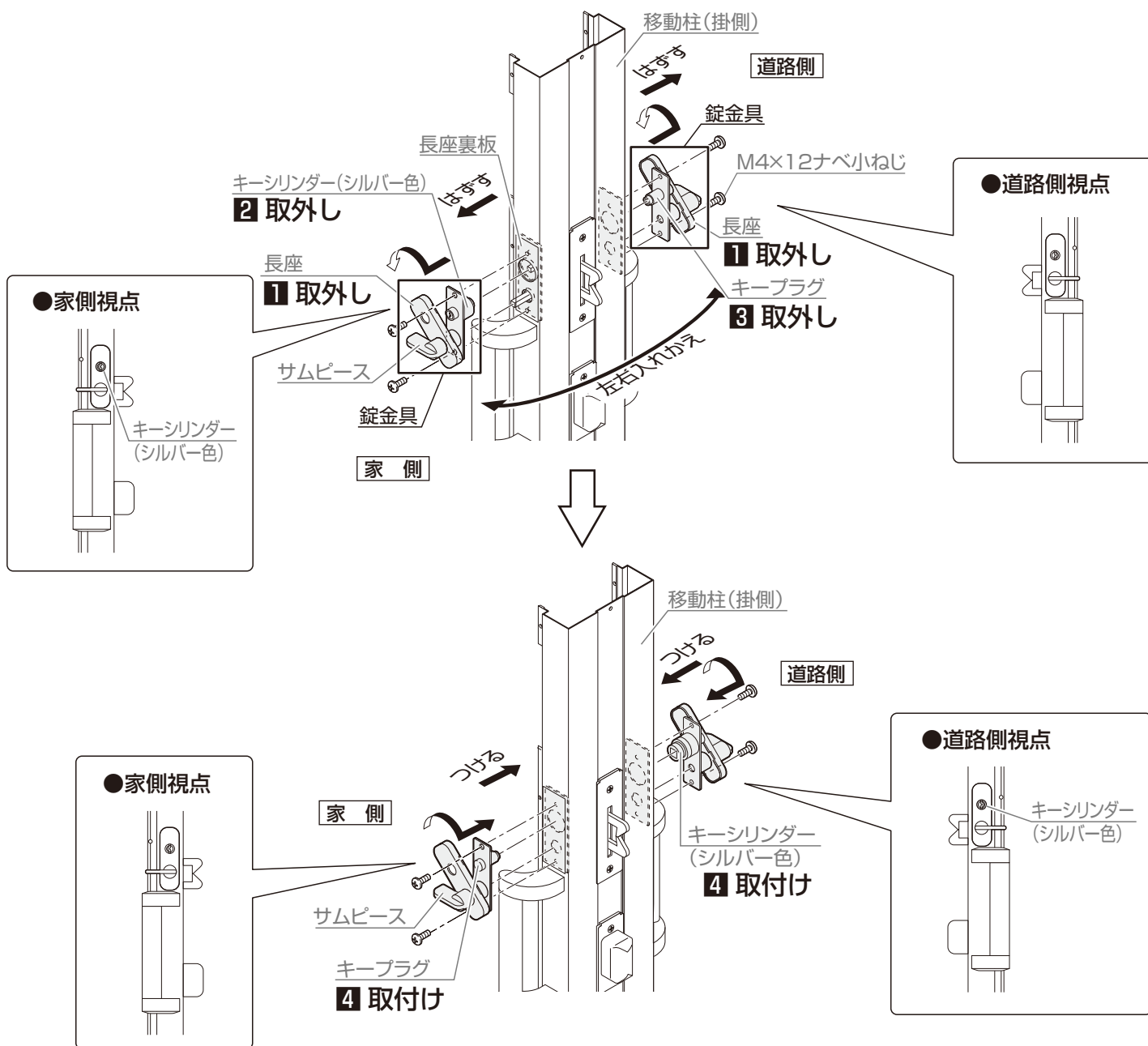
2: 長座を外して錠金具(キーシリンダー)を取付けている上下のねじを外す

3: 錠金具(キープラグ)も同じようにねじを外す

4: 組み替えた錠金具(キーシリンダー)が道路側へくるように取付ける

施工上のお願い

- 鍵穴が縦向き状態で取付けてください。
- サムピースの向きは図の向きに合わせて取付けてください。



3 施工手順

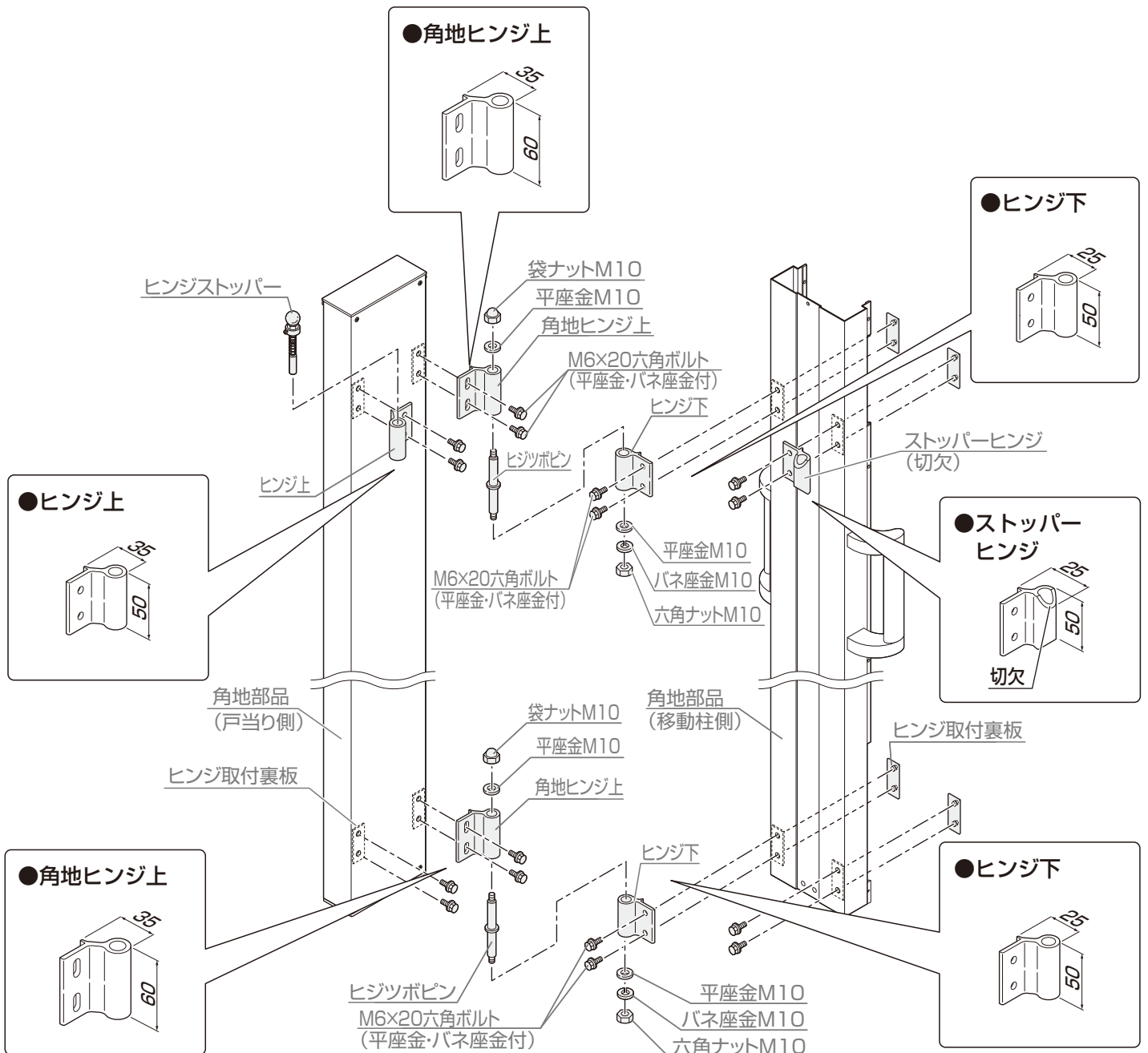
3-3 門扉タイプに合わせて部品を付替える (つづき)

3-3-2 角地ヒンジの付替え (角地タイプの場合)

1: P11「角地の種類」で「2角地右コーナー柱」の仕様で施工する場合、下図の様にヒンジを付替える

施工上のお願い

●ヒンジは形・長さ違いで4種類あります。取付け位置に注意してください。

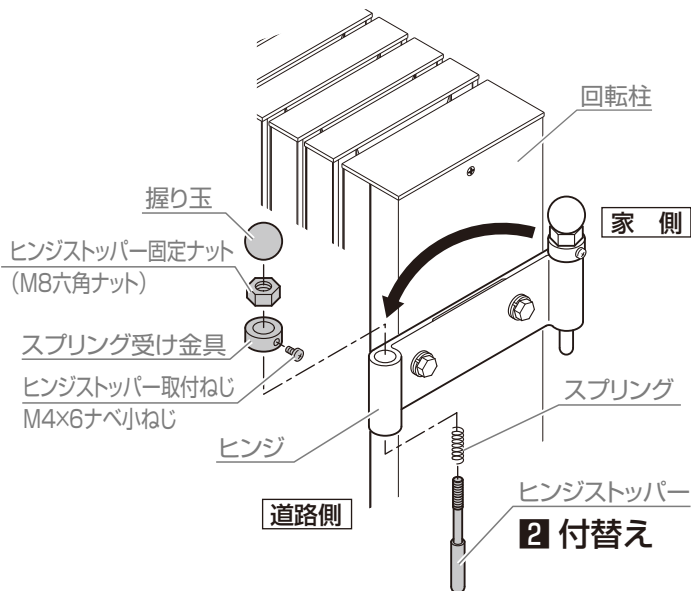


3 施工手順

3-3 門扉タイプに合わせて部品を付替える (つづき)

3-3-3 ヒンジストッパーの付替え

- 1: 門扉本体の設置方向と、家側・道路側を確認する
- 2: ヒンジストッパーが家側に組付いている場合、道路側に付替える



3-4 門扉本体の取付け

⚠ 注意

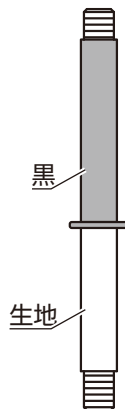
- 本体転倒に注意して、2名以上で作業を行ってください。

- 1: ヒジツボピンA・ヒジツボピンBを、吊元柱に取付ける

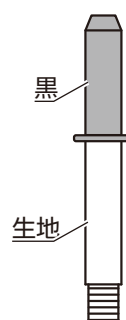
施工上のお願い

- ヒジツボピンA・ヒジツボピンBは、黒シャフト部を上に向けて取付けてください。

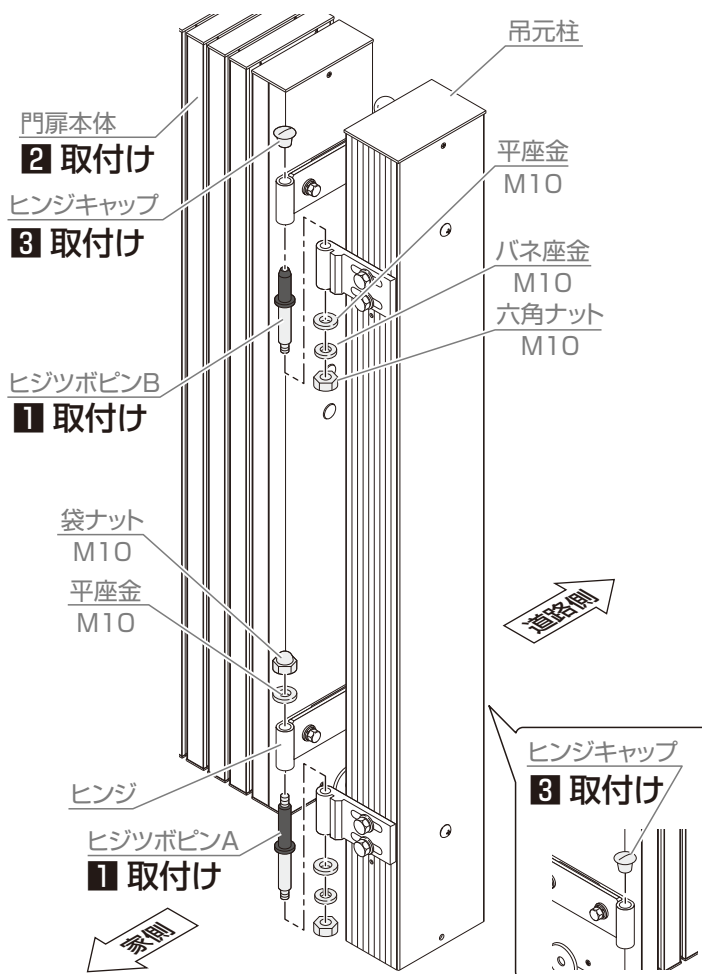
● ヒジツボピンA



● ヒジツボピンB



- 2: 門扉本体をヒジツボピンAからヒジツボピンBの順に吊元柱に取付ける
- 3: ヒンジキャップを家側上部と道路側下部のヒンジへ取付ける



3 施工手順

3-5 移動柱の取付け・角地部品の取付け

⚠ 注意

●本体転倒に注意して、2名以上で作業を行ってください。

■片開きタイプ、両開きタイプ、両開き親子タイプの場合

- 1: 接続格子に仮止めされている格子カバーを上をスライドさせ取外す
- 2: 移動柱(掛側・受側)を取付ける

施工上のお願い

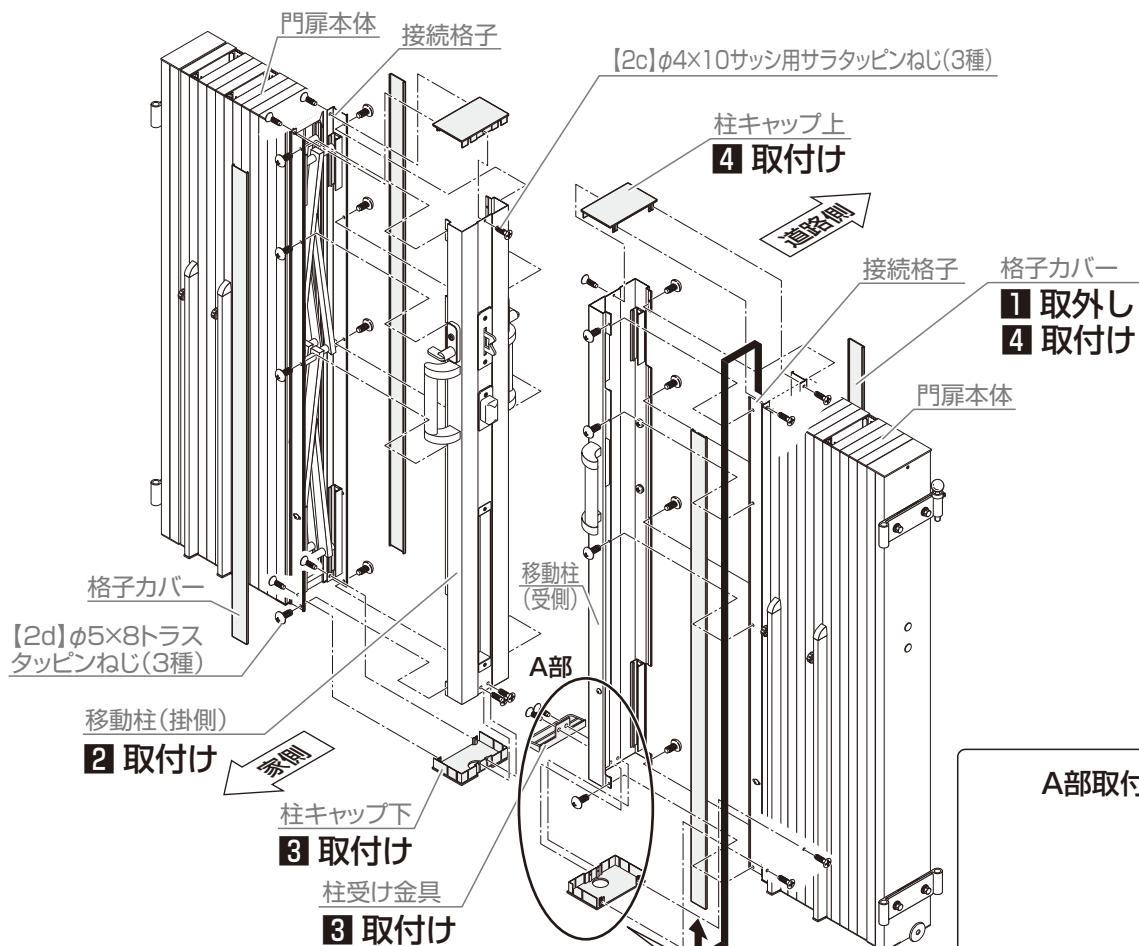
●両開き親子タイプの場合は小扉に移動柱(掛側)を取付けてください。

- 3: 柱キャップ下と柱受け金具を取付ける

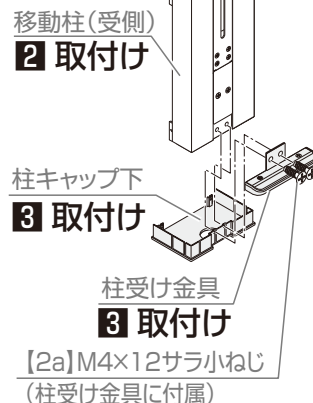
施工上のお願い

●移動柱(掛側)への柱受け金具の取付けは不要です。

- 4: 3-6～3-11の調整後に格子カバーと柱キャップ上を取付ける

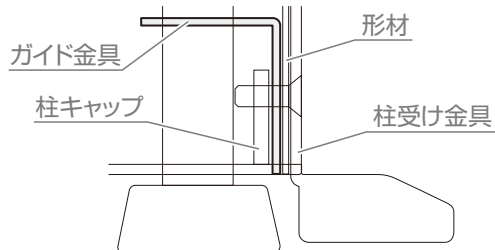


A部取付詳細図



施工上のお願い

●移動柱(掛側)の内側にはセンター落とし棒のガイド金具が仮止めされています。下記の位置関係で共締めしてください。



3-5 移動柱の取付け・角地部品の取付け (つづき)

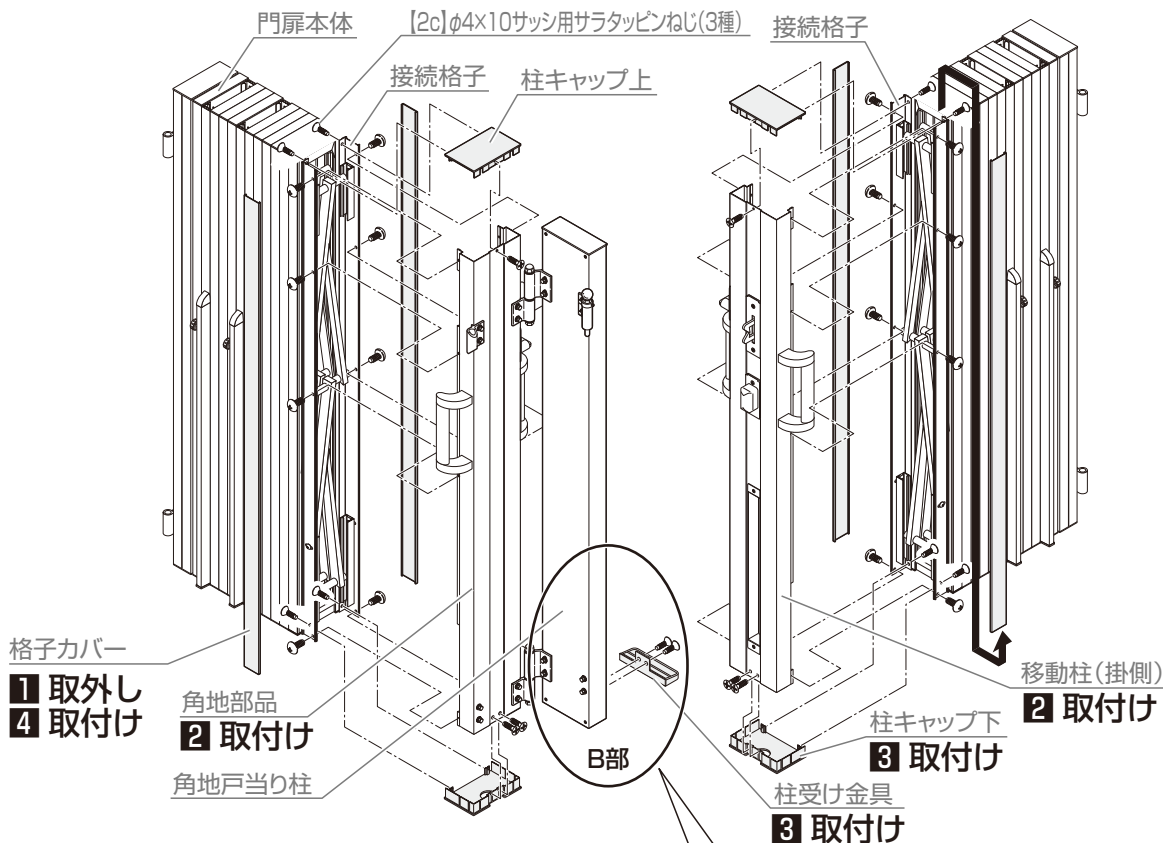
■角地タイプの場合

- 1: 接続格子に仮止めされている格子カバーを上をスライドさせ取外す
- 2: 敷地に合わせて角地部品と移動柱(掛側)を取付ける
- 3: 柱キャップ下と柱受け金具を取付ける

施工上のお願い

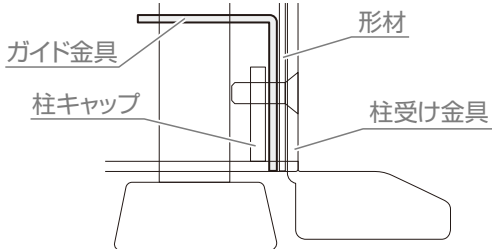
- 移動柱(掛側)への柱受け金具の取付けは不要です。

- 4: 3-6 ~ 3-11 の調整後に格子カバーと柱キャップ上を取付ける

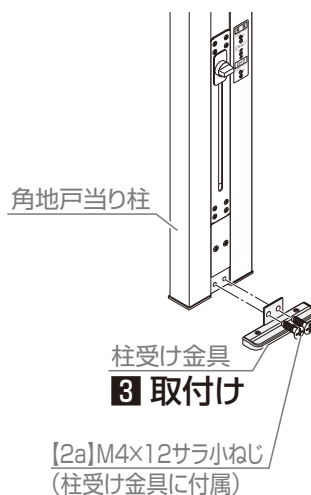


施工上のお願い

- 角地戸当り柱の内側にはセンター落し棒のガイド金具が仮止めされています。下記の位置関係で共締めしてください。



B部取付詳細図



3 施工手順

3-6 落とし棒の付替えと格子キャップ上の取付け

※片開きタイプ（右勝手）、両開きタイプ、角地タイプの場合は、落とし棒が家側になるように以下の手順で付替えてください。
※落とし棒の付替えを行わない場合は**⑤**のみ行ってください。

①: ナベ小ねじをゆるめて、落とし棒を外す

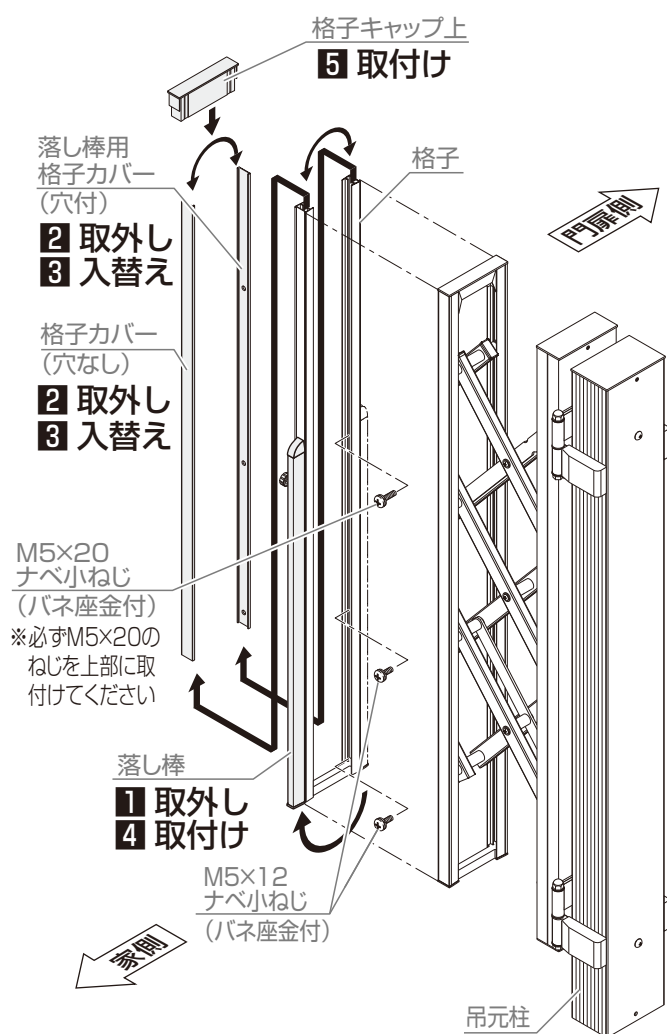
施工上のお願い

●ねじ頭が大きい方のねじを外してください。

- ②**: 家側・道路側の格子カバーを上にもスライドして外す
- ③**: 格子カバーの家側・道路側を入れ替える
- ④**: 逆手順で落とし棒を取付ける
- ⑤**: 格子キャップ上をプラスチックハンマーで軽くたたき込む

施工上のお願い

●格子キャップは一度取付けると、取外す際に固定用のツメが破損するおそれがあります。



3-7 回転柱の高さとヒンジストッパーの長さ調整

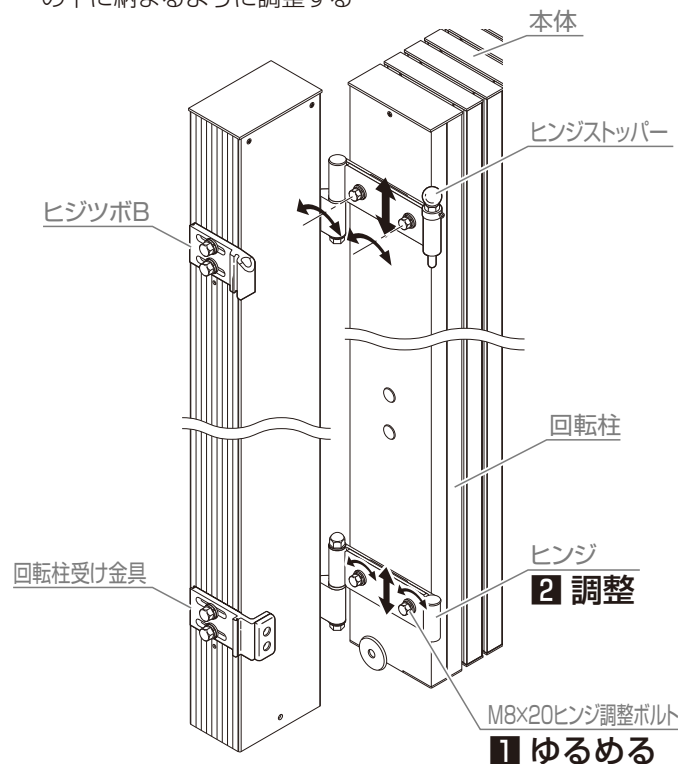
3-7-1 回転柱の高さ調整

※吊元柱と回転柱の高さが合わない場合は以下の手順で調整してください。

施工上のお願い

●本体が落ちないように上下別々に調整してください。

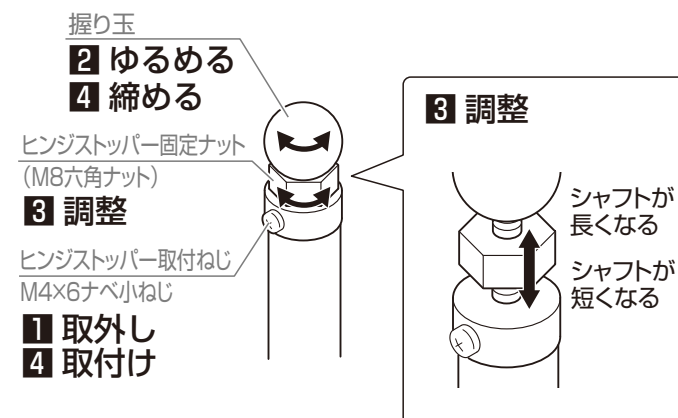
- ①**: 回転柱についているヒンジ調整ボルトをゆるめる
- ②**: ヒンジストッパーがヒジツボBに、回転柱受け金具がヒンジの下に納まるように調整する



3-7-2 ヒンジストッパーの長さ調整

※ヒンジストッパーを引き上げずにヒジツボBから抜けてしまう場合は以下の手順で調整してください。

- ①**: ヒンジストッパー取付ねじを外し、ヒンジストッパーをヒンジから取外す
- ②**: 握り玉をゆるめる
- ③**: ヒンジストッパー固定ナットを回転させてシャフトの長さを調整する
- ④**: ナットを固定しながら握り玉を締めて、逆手順で取付ける



施工手順

3 施工手順

3-8 移動柱先端の高さ調整

3-8-1 本体の水平調整

※移動柱の高さが戸当り柱、他方の移動柱と合っていない場合、以下の手順で調整してください。(上下 50mm 以上の場合)

1: 本体が垂れたり反ったりする場合には、吊元柱に付いているヒジツボのねじをゆるめてヒジツボAを出し入れし、本体が受側の柱受け金具に納まるように調整する

施工上のお願い

●アジャスターボルトで高さを微調整する場合は、「3-8-2門扉本体の移動柱先端部の微調整」を行ってください。

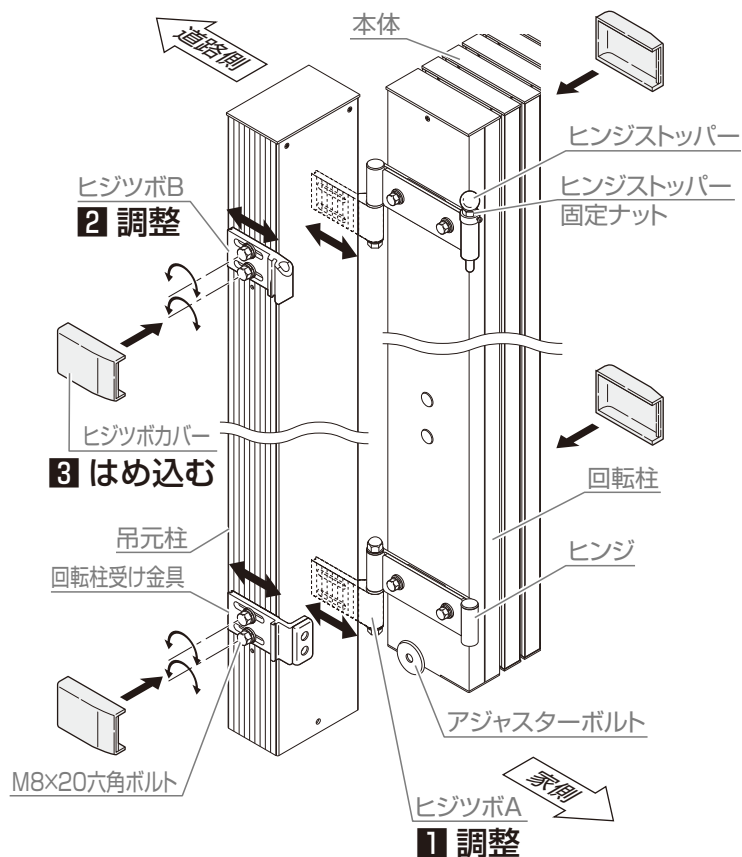
2: 直線収納時、ヒンジストッパーがヒジツボBに納まるよう、また回転柱受け金具が回転柱に丁度触れるようにヒジツボBと回転柱受けを調整する

3: 調整後、ヒジツボカバーをはめ込む

施工上のお願い

●本体移動柱(掛側)を戸当り柱、移動柱(受側)より高めにしておき、「3-8-2門扉本体の移動柱先端部の微調整」を参考にアジャスターボルトで下げるようにすると調整がしやすくなります。

●構造上、吊元柱と回転柱が平行にならない場合があります。



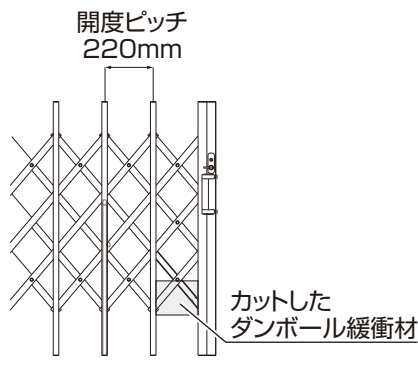
3-8 移動柱先端の高さ調整（つづき）

3-8-2 門扉本体の移動柱先端部の微調整

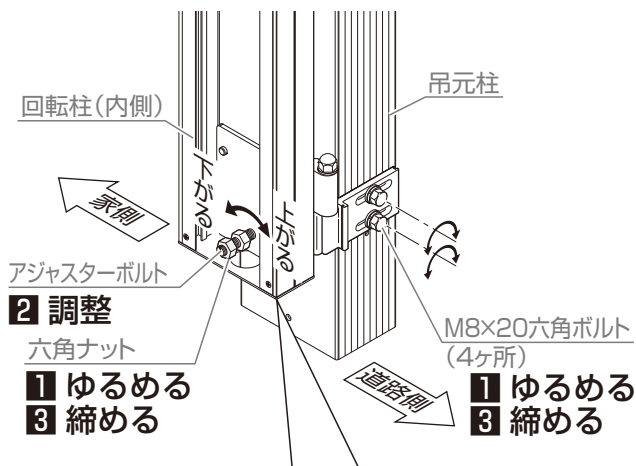
※微調整幅が上下 15mm 以内の場合、以下の手順で調整してください。

施工上のお願

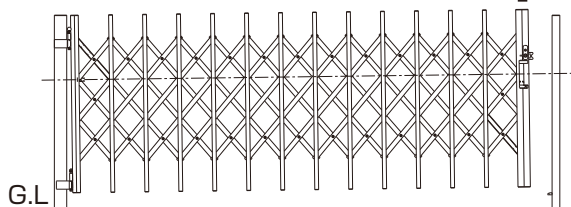
- 355S以上のサイズで本体を伸ばした状態が維持できない場合は、ダンボール緩衝材を開度ピッチ220mmになるようにカットして格子の間にはさんでください。



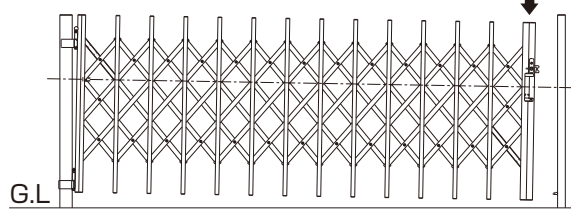
- 1: 吊元柱下側のヒジツボ・回転柱受け金具(家側・道路側)の六角ボルト4本と、六角ナットをゆるめる
- 2: アジャスターボルトをマイナスドライバーで回して、移動柱先端高さを調整する
- 3: 回転柱受け金具を回転柱にピッタリあてて、ゆるめた各ボルト・ナットを締める



●右に回すと先端が上がる



●左に回すと先端が下がる



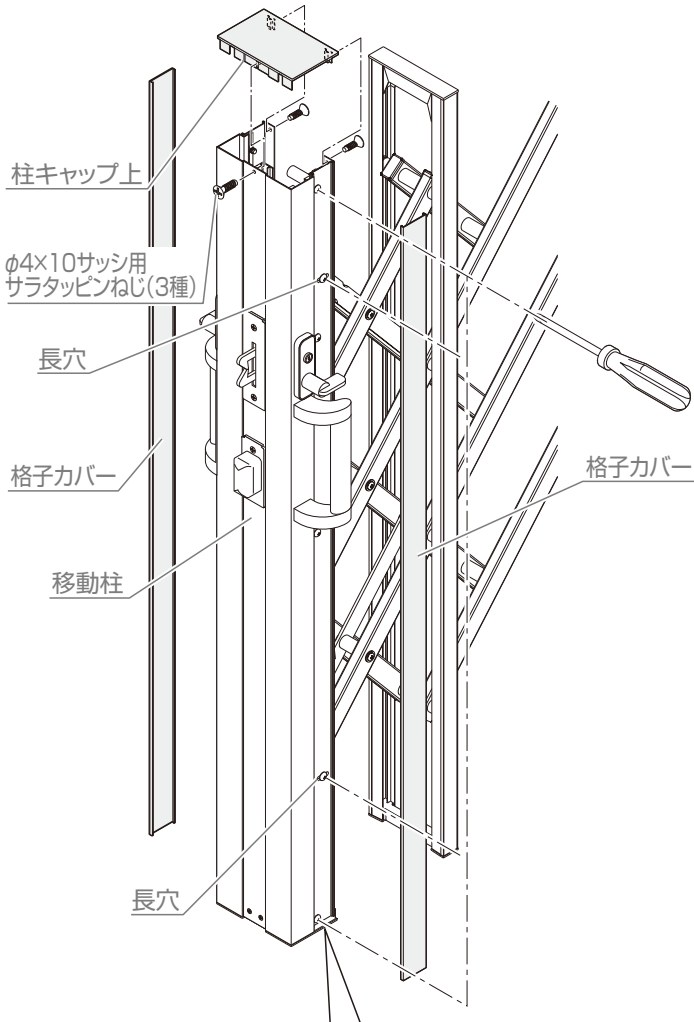
3 施工手順

3-9 移動柱の角度調整

施工上のお願い

●戸当り柱と移動柱および両開き時の移動柱同士が平行に取付かない場合、以下の手順で調整してください。

❶: 移動柱の角度調整部分のねじ(8カ所)をゆるめ、戸当り柱または移動柱と合わせて締め直す

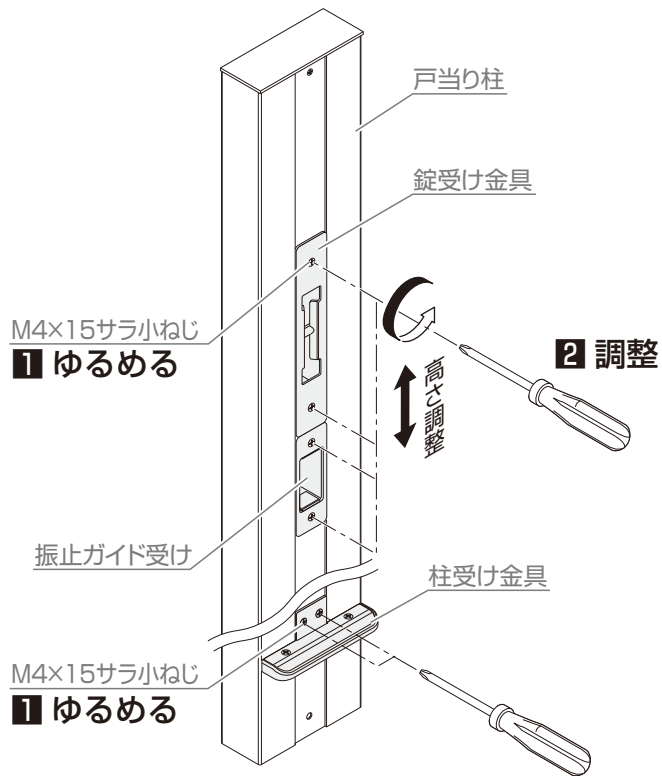


3-10 錠受け金具、振止ガイド受け、柱受け金具の高さ調整

- ❶: サラ小ねじをゆるめて高さ調整する
- ❷: 調整後はサラ小ねじを十分締めつける(上下各5mm調整が可能)

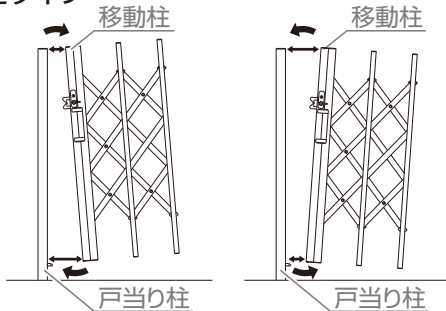
施工上のお願い

●部品がばらけないよう、3回転以上ねじをゆるめないください。

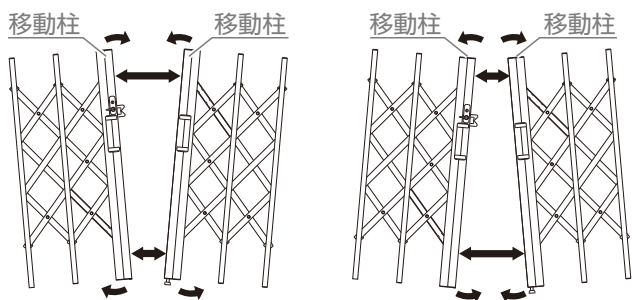


施工手順

片開きタイプ



両開きタイプ



3 施工手順

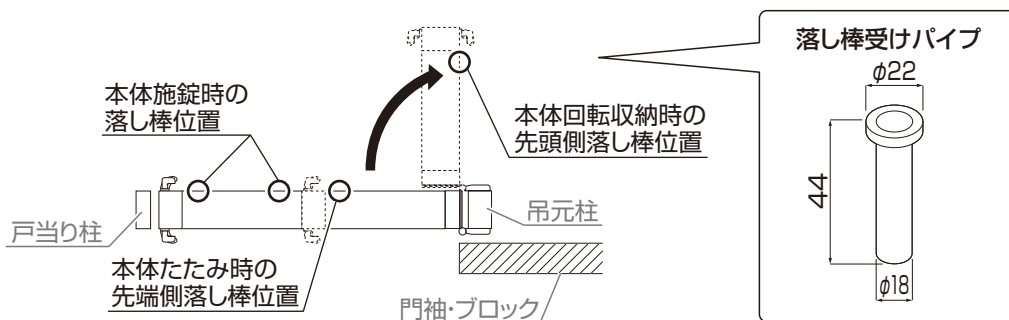
3-11 落とし棒受けパイプとセンター落とし棒受けの埋設

- 1: 次の位置に落とし棒受けパイプを埋設する(下穴φ18~20深さ44mm)
 - ・ 本体を施錠したときの全ての落とし棒位置
 - ・ たたみ時の先端落とし棒位置または回転収納時の先端落とし棒位置(下図は90度の場合を示す)
- 2: 両開きタイプ・親子タイプ・角地タイプの場合、施錠時のセンター落とし棒部にセンター落とし棒受けを埋設する(下穴φ38~40深さ17mm)

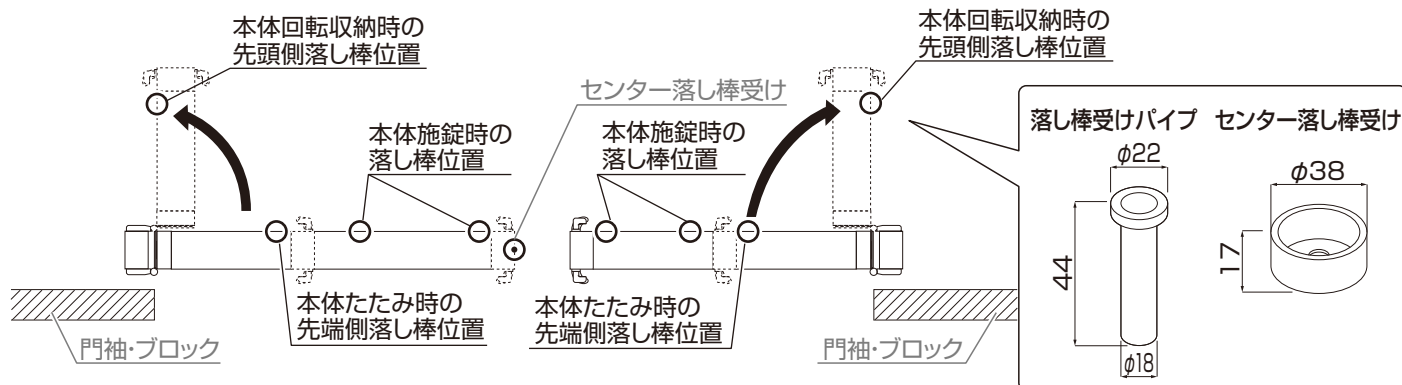
施工上のお願

- 基礎寸法は 1-2 を参照し指定寸法以上にしてください。
- 下穴が大きくなり落とし棒受けが固定されない場合は、市販の屋外用コンクリート接着剤等で固定してください。
- 落とし棒受けパイプを接着剤で固定する場合は、用途に樹脂との接着があるものを使用してください。
- センター落とし棒受けを接着剤で固定する場合は、用途に金属との接着があるものを使用してください。

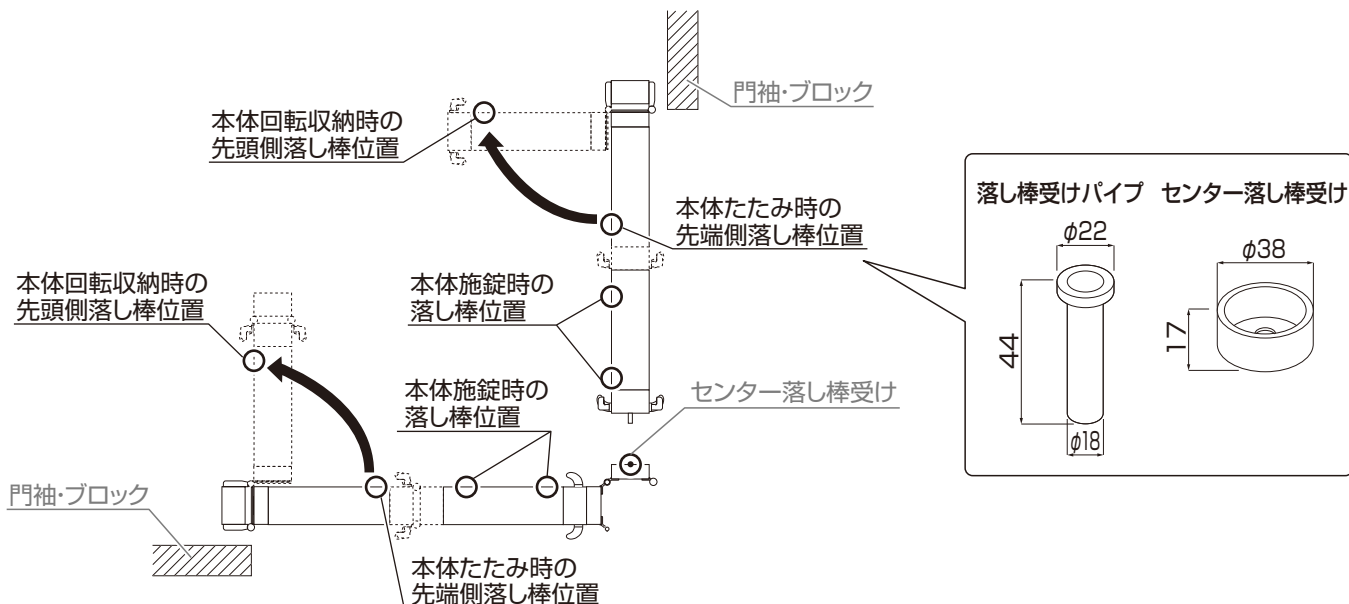
■片開きタイプ



■両開きタイプ・両開き親子タイプ



■角地タイプ



3 施工手順

3-12 センター落とし棒の下限位置設定

※両開き・親子・角地タイプの場合、下記の手順でセンター落とし棒の下限位置を設定してください。

- 1: センター落とし棒をセンター落とし棒受けに落とし、下限位置を決める

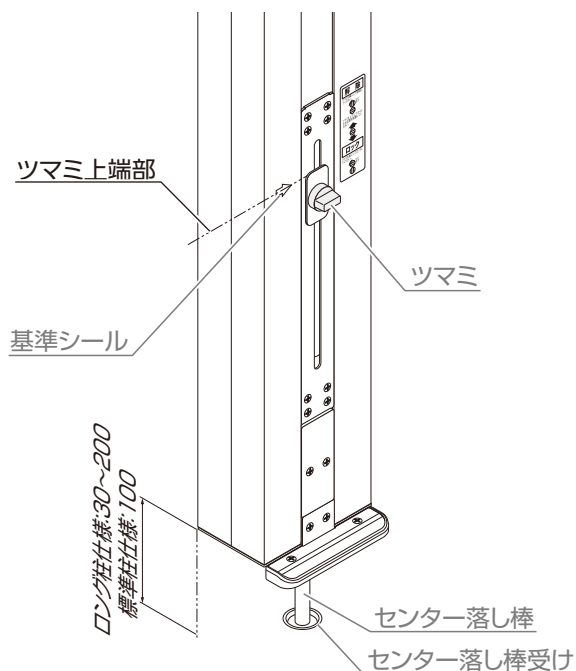
施工上のお願い

- 標準柱仕様の場合、移動柱下部とGLの間隔は100mmとなります。
- ロング柱仕様の場合、現場の状況に応じてセンター落とし棒の調整範囲内(30～200mm)で下限位置を決めてください。

- 2: 基準シールをツマミ上端部の横に貼りつける

施工上のお願い

- ロング柱仕様で傾斜やくぼみなどによりセンター落とし棒が地面に届かない場合、[3-13](#)の作業後、基準シールを貼りつけてください。



3-13 センター落とし棒の調整

※ロング柱仕様で傾斜やくぼみなどによりセンター落とし棒が地面に届かない場合、以下の手順で調整してください。

- 1: 隙間金具ビスをゆるめて、下切欠き部から裏板と共に隙間金具を取外す
- 2: センター落とし棒のねじをゆるめてセンター落とし棒全体を下に下げる
- 3: 上切欠き部から裏板を仮止めした状態で、隙間金具をビスで固定する
- 4: 調整後、ゆるめた各ねじを締める

